

2017年度商学部専門科目「経営学」 第2回 大阪市立大学における「学び」について

本日の目標

今回は、大阪市立大学商学部での「学び」を実感していただくことを目指す。そのために、まず、大学での「学び」とは何かをお話し、次に本学部で学んで現在大学院生となっている方からお話いただき、最後にキャリアデザイン論のさわりのさわりを経験いただいて、具体的に知っていただく。

本日の内容

前回の復習/今学期の授業計画の修正について/今回のキーワード/大阪市立大学における「学び」について/参考文献/次回のキーワード

0 前回の復習

商学と経営学，経済学の関係性

経済の循環を検討する商学と企業内部及び関係者を議論する経営学

商学の中の経営学…事業継続体としての企業活動を対象

1 今学期の授業計画の修正について

お二人目のご講師…開化堂八木先生（GO ONの一員）（最終ページ参照）

開化堂：<http://www.kaikado.jp/japanese/index.html>

GO ON: <http://goon-project.com/>

月	日	曜日	時限	回数	内容	
					「経営学」講義	企画書づくり
4	14	金	3	1	大阪市立大学商学部での学びとは何か:ガイダンス	-
4	28	金	3	2	大阪市立大学商学部での学びとは何か:大学での学びの意味と大学院生数名の経験談	ミニ・キャリアデザイン論の実践
5	12	金	3	3	ご講演Ⅰ:国際CCO交流研究所 理事 粟津重光先生ご講演	粟津先生のご講演、課題を受けての作業開始
5	19	金	3	4	会社の仕組み	分析シート作業の継続
5	26	金	3	5	戦略論の過去、現在、未来①	分析シートの完成、発表、提出
5	30	火	3	6	戦略論の過去、現在、未来②	企画シート作業への着手
6	2	金	3	7	人的資源管理について	企画シート作業
6	9	金	3	8	企画シート作業日	企画シートの完成、発表、提出
6	16	金	3	9	株主価値について	プレゼンシートへの着手、企画書への着手
6	23	金	3	10	生産活動について	過去の粟津先生の課題にたいする優秀プレゼンの鑑賞、企画書の作成
6	30	金	3	11	企業文化について	企画書の作成
7	7	金	3	12	ベンチャービジネスについて	後期キャリアデザイン論の宣伝&企画書の提出
7	14	金	3	13	ご講演Ⅱ:開化堂八木先生ご講演	企画書レポート発表者の公表
7	21	金	3	14	企画書レポート発表会	優秀企画書の発表会

2 今回のキーワード

科学，理論と実践，キャリアデザイン論

3 大阪市立大学における「学び」について

3.1 大学の「学び」とは

- 大学で行われる科学研究

…(1)模倣を越えた創造（資料 1）

→大学は学問を行う場

資料 1

科学における模倣とは、基本的に論理の積み上げで予測できる範囲にある。科学的な創造とは、これに対して「論理を越える」ことで、この予測をくつがえすような発見にたどりつくことである。日本

の技芸で、伝統を身につけた後に独自の道を極めることを指して、「守破離」という言葉があるが、模倣によってこれまでの研究を守り、それを破り、そして創造の力でそれから離れることができれば、「論理を越えた」ことになる。(酒井, 2006, 63 頁)

創造を生むために必要な「運・鈍・根」

運…チャンスを生かす

鈍…先が見えない方がいい、頑固一徹、周りに流されない、牛歩、道草をいとわない

根…根気

創造を生む「個の徹底」

→ (2) 自分で納得するまで「考える」こと…独創性へ (資料 2)

資料 2

研究者になる上で最も大切なことは、「個」に徹することである。科学研究がどんなに多人数のチームワークとなろうとも、この点だけは変わらない。一流の研究者は強烈な「個」を持ち、ひたすら「個」に徹する。研究者にとって「個」に徹するとは、「自分で納得するまで考える」ということに尽きる。それは、研究が他人本位では決して成り立たない仕事だからである。/「個」に徹することで、科学に最も大切な「独創性」が生まれる。新しいアイデア、過去のアイデア同士を結びつける新しい組み合わせ、実験データの新たな解釈。研究者にとっては、こうした発想の独創性が命である。独創性が重視される科学の世界では、二番煎じは通用しない。それまで報告されたことのない独自のアイデアや成果が必要とされるのだ。模倣から創造への道がある一方で (第 2 章)、独創性は常に模倣との戦いを必要とする…ところが、容易にまねのできないものが 1 つだけある。それは研究者の「個性」なのである。「個」に徹するということは、自分で物事の是非を判断し、あらゆる権威に屈しないということでもある。(酒井, 2006, 76-77 頁)

⇒自らになること…相田みつをの詩 (資料 3)

資料 3

自分が自分に

ならないでだれが

自分になる

あなたが

あなたに

ならないで

だれがあなたに

なってくれる (酒井, 2006, 104-105 頁)

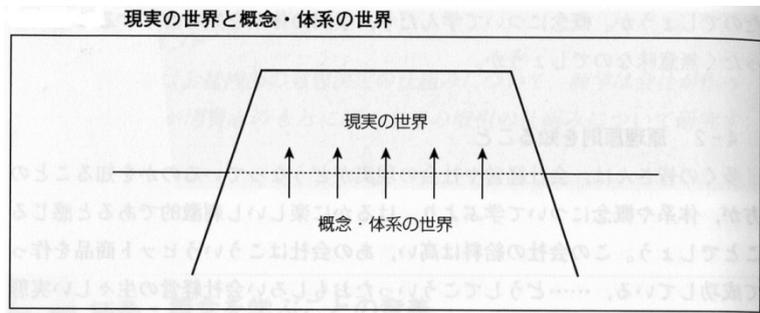
独創性につながるのは、(3) 不思議を見つける研究者の好奇心 (資料 4)

資料 4

科学研究のきっかけは不思議な自然現象を見つけることである。不思議なことに対して、「なぜだろう」と思い、そのからくりを解決しようという動機が原動力となって、研究が始まる。「みんながやっているから」、「それがあたり前だから」、「それが伝統だから」という理由では、そもそも研究をしてもしかたがない。…不思議だと思ふことは、「好奇心」の表れである。(酒井, 2006, 116-117 頁)

現実と理論の関係 (資料 5)

資料 5



出所) 上林他 (2007)、384 頁。

感性の磨きが必要、他方で、その感性で捉えたことをいかにして論理的に示すのか (資料 6)

資料 6

このように、科学的な理論には実験的な裏づけが必要であり、実験で得られた現象には理論的な説明が必要となる。また、基礎的な発見は応用技術によって実用性の道が開かれ、応用技術のさらなる発展には基礎的研究が必要となる。このように、研究では両者の相互作用の意味と深さが決定的である。つまり「よく観察して確かめる」ためには、「理論と実験」や「基礎と応用」のバランス感覚が大切なのだ。(酒井, 2006, 129 頁)

⇒そこで求められる(4)「考えること」(資料 7)

資料 7

研究者にとって特に大切なのは、「考えること」である。そのためには、考えるための物理的な時間だけでなく、精神的な「飢餓感」が必要となる。これは、現状に安住することを嫌い、常に新しいアイデアを渴望するような「ハングリー精神」でもある。(酒井, 2006, 131 頁)

一つの成果物…自ら考えて生まれたオープンキャンパス=プロジェクトゼミナール (DVD)

3.2 具体的な、「考える」研究者の例

大学院生のお二人のお話へ

浅野ゼミ今西さん

山田ゼミ植田さん

3.3 「考える」ための作業

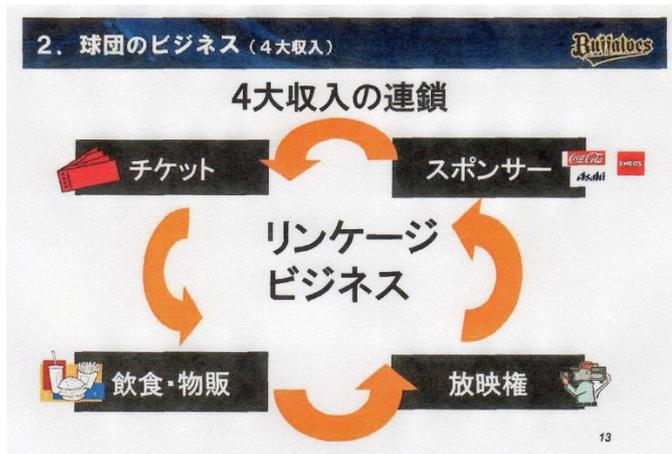
ミニ・キャリアデザイン論

3.3.1 ミッション

大阪市立大学とオリックス・バファローズの双方が Win-Win の関係になるようなコラボ企画を考えよ!!

3.3.2 オリックス・バファローズ上田先生のご講演

- オリックス・バファローズについて
「量」(ファンの多さ)より「質」(ファンの深さ)の支持
- 主催試合による収益の向上 (資料 8)



出所) 資料 8, 9 とともに上田先生ご講演資料 (2014 年 11 月 14 日)。

「勝つこと」は何より重要

その際、地元からの支持が必要…地域密着、ローカルブランド

- 色々なお客さまの存在

当然バファローズファンは多い

しかし、全員がバファローズファンとは限らない

また、野球にあまり興味のない方もいるし、それに、まったく野球に興味のない方もいる (資料 9)

- お客様は何を求めるのか

お客様は「勝ち」だけを求めてはいない

ミドル層のファンは「勝ち」よりも「楽しみ」を求める

ライト層のファンは「心地よさ」を求める

- バファローズが考える「プロの責任」

いろいろな価値観を持ったお客様の要求に応えなければならない！！

「今回、バファローズは負けたけれども、〇〇で楽しかったね!!また、行きたいね!!」

色々なお客様に対したいとのスタンスで、大阪市立大学とオリックス・バファローズのコラボ企画というミッションへ

3.3.3 分析作業と企画作業の予行演習

- 個々人、グループによる分析シートを使っでの徹底分析作業

10 分間で、分析シートの 5 つの項目内容を書き出しましょう。

次の 10 分間で、グループを組んで、そのグループで「1 枚の分析シート」を完成させましょう。(個人で行う場合は、隣の方との意見交換などを踏まえて、より吟味しましょう)

- 当時の優秀プレゼンをどうぞ！

分析シート、企画シートは別紙参照。

4 参考文献

酒井邦嘉 (2006) 『科学者という仕事』 中公新書

上林憲雄・奥林康司・團泰雄・関本浩矢・森田雅也・竹林明 (2007) 『経験から学ぶ経営学入門』 有斐閣ブックス

5 次回のキーワード

コーポレートガバナンス, 株式会社, ステークホルダー, エージェンシー論, 経営者